

[佳 作]

「日ロ北方領土問題」

札幌市立伏見中学校

1年 関戸 紘仁

北方領土とは、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島のことだ。これら北方領土は、1945年に、ソ連が崩壊してロシアとなった現在も、その状態が続いています。

2016年12月15日、日本とロシアの間で、満を持して会談が行われていました。しかし、結果は日本にとって「すぐに」領土問題の解決が感じられる内容ではありませんでした。

日本とロシアは、もう戦後半世紀以上もたっているのに、平和条約を結んでいない状態です。この平和条約とは、簡単に言えば「これからお互い仲良くしましょう。」という条約を結んでいないのです。その原因は、日本の領土である北方領土をロシアが実効支配しているためです。なので、日本とロシアで経済交流をしようと言っても、この領土問題のため一向に動きがありません。これを北方領土問題といいます。

北方領土が占拠された当時、日本とロシアは、日ソ中立条約という条約を結んでいました。日ソ中立条約とは「有事の際はお互い中立で、侵略行為は行わない。」という国家間の約束事でした。しかし、これを当時のソ連は、一方的に破棄した上で攻め込んできました。しかし、ソ連は、日本が先に条約を破棄したと主張しています。また、太平洋戦争が終わる直前の8月9日に日本へ宣戦布告を行い、8月28日にソ連軍が北方領土に侵攻した。日本としては、不正に奪われた印象が強く、4島とも返還されるべきだと日本は言っています。

日本の北方領土に対しての主張としては、不正に占拠された土地を全て返してほしいという主張です。過去にはアメリカからの要求や国内事情で、2島返還など主張が変わったなどの問題点もあります。

ロシア側の主張としては、日本と協力する必要性を感じてる点や不正に占拠した認識があるためか島の一部は返還しようとしています。返還の内容は1956年に結ばれた日ソ共同宣言で決まった、歯舞と色丹の2島を日本に返還する。これがロシア側の主張です。しかし、この2島返還は不平等なのです。理由は面積です。日本に返還されるのは、351平方キロメートルで、ロシアに残る2島は4,683平方キロメートルあるので、これは不利だといえます。なので、なかなか解決策がでないまま進んでいます。

日本は、ロシアと仲良くなりた理由は、欲しいものがあるからです。それは、ロシアのガスと日本の安全です。ロシアは、ガスをたくさん持っているので、それを日本は安くロシアから買いたいのです。そして、安全は日中関係などで大事になっています。

最後に僕は、この北方領土問題を知って、結局ロシアとこの関係を成立させて仲良くなりたと思うので、1回問題を受け入れて関係を良くし、交渉を進めるのが良いのではないかと思います。